

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
SS特別選抜 コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現。	<p>生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する。</p> <p>個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる。(1年)</p> <p>実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす。(3年)</p> <p>「総合的な探究の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる。</p> <p>模試、8限、特編授業、サプリなどを活用し、個々の学力の伸長を目指す。</p>
文理選抜コース	総合的な学力の向上を図るべく、計画的に高校生活を送り、主体的に自分の未来を拓く力をつける。	<p>生徒一人ひとりの学力を把握し、面談を通して計画的に学習できるように指導する。</p> <p>個々の学習習慣を定着させ、家庭学習時間を持たせる。</p> <p>キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、生徒それぞれが創造的・創作的にテーマに取り組みプレゼンテーションを行い、ディスカッションを重ねることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。</p> <p>部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みと勉強との両立をさせる。</p>
学術探究コース 総合学術系統	生徒が潜在的に持つ知的好奇心を喚起し、主体的な学習意欲、探究心、問題発見意識などの向上を図る。 多様な価値観を大局的な視野で理解し受け容れながら、周囲と協働しながら課題解決を図れる人材を育成する。	<p>確かな学力、探究心の育成を目指し、授業の充実を図り「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を行う。</p> <p>キャリア教育を行うことで、1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。課題研究、プレゼンテーション、ディスカッションなどの経験値を積み上げることで、知識から正解を素早く出すことよりも、解決すべき課題を発見する力や、学び続ける強い意志、協働により課題解決の道すじを切り開く力を育成する。</p> <p>部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、多くの人間が関わり合うことで、それぞれの持つ個性を洗練し、確固たる「自己肯定感」を有する生徒を育成し、現代の社会の適応できる「人間力」の実現を目指す。</p> <p>教員自らが教科指導力を高め、授業の質的向上を図る。</p>

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
<p>学術探究コース 美術工芸系統</p>	<p>希望進路の実現。</p>	<p>キャリア教育を踏まえ、進路実現のため、適切な支援を行う。 専門実習の充実と共に学力向上、美大入試科目の充実を図る。 アートセンター(美大予備校)及び美術大学との連携。</p>
	<p>生徒の心身の充実。</p>	<p>教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う。 美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。</p>
	<p>生徒作品の充実。</p>	<p>公募展に積極的に挑戦したり、更なる美工展の充実を図る。 様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める。</p>
	<p>生徒募集活動の活性化。</p>	<p>美大進学—就職を意識した、募集活動の検討、実施。 美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討。</p>
<p>学術探究コース 専修学術系統</p>	<p>学力向上・人間形成。</p>	<p>基礎学力の定着が不十分な生徒に対して継続して学び直しの機会を設け、復習をすることでそれを定着させる。応用力へ繋げるためにも家庭学習を習慣化する。 定期的な集会を催し、問題提起をし、考えさせ、解答を見出す機会を作る。それによりリーダーシップの育成を行う。自立心を養いコミュニケーション能力を高める。</p>
	<p>競技力・競技実績の向上。</p>	<p>競技ごとに目標を設定し、それに向けての指導計画を作成し、段階的な指導を行う。生徒個々の特徴を引き出せる指導法を探究する。 学校内における様々な部署と連携を図り、各競技に合った柔軟な指導体制を確立する。</p>
	<p>希望進路の実現。</p>	<p>競技力・競技実績と学力・人格を向上させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を学年や担任と連携を取りながら行っていく。 進路開拓のため大学訪問を積極的に行う。各競技独自のセレクションに対応すべく、進路研究も行う。</p>
<p>スポーツ サイエンス コース</p>	<p>学力向上・人間形成。</p>	<p>基礎学力の定着が不十分な生徒に対して継続して学び直しの機会を設け、復習をすることでそれを定着させる。応用力へ繋げるためにも家庭学習を習慣化する。 定期的な集会を催し、問題提起をし、考えさせ、解答を見出す機会を作る。それによりリーダーシップの育成を行う。自立心を養いコミュニケーション能力を高める。</p>
	<p>競技力・競技実績の向上。</p>	<p>競技ごとに目標を設定し、それに向けての指導計画を作成し、段階的な指導を行う。生徒個々の特徴を引き出せる指導法を探究する。 学校内における様々な部署と連携を図り、各競技に合った柔軟な指導体制を確立する。ハード面の整備を行う。</p>
	<p>希望進路の実現。</p>	<p>競技力・競技実績と学力・人格を向上させることで希望進路を実現させる。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を学年や担任と連携を取りながら行っていく。 進路開拓のため大学訪問を積極的に行う。各競技独自のセレクションに対応すべく、進路研究も行う。</p>
<p>食物科</p>	<p>高いプロ意識を持ち、食生活の向上及び食文化の創造に貢献できる調理師の育成と、希望進路の実現。</p>	<p>3年間を通して知識・技術の定着を図り、応用力を養う。また、料理の仕上げや盛り付け、味の評価を行うことで、総合的な力を身につけさせる。 校外実習を通して、社会人として必要なマナー、協調性、忍耐力、コミュニケーション能力などの力を身につけさせる。 きめ細やかな指導により早い段階から目標を持たせ、希望する進路の実現を目指す。より一層の進路開拓を行う。</p>

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
1学年	「自己肯定感」を確立するため、主体的な姿勢を有しながら、多様性を柔軟に受け容れ、周囲との協働により問題解決能力を育成する。それを社会参画や生きる力に繋げていく。	自他共にそれぞれの長所を磨き認め合う力を育成する。 自分は真面目人に親切の実践。
		主体性を育み自治の精神の確立を目指し社会的自立を果たす。
		学習習慣の定着とそれぞれの学力観とその成果へ結びつける活動。
		時代や社会の風を読む人間とそこで通用する人間力の育成。 社会参画力(勤労観や職業観)と生きる力を育む。
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材への発展。	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。
		基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。
		自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる。
		将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる。
		沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる。 主権者としての意識や自覚を向上するための学習を実施する。
3学年	社会より必要とされ、自ら考えて他のために行動することができる人材を育成する。	基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める。
		自主・自立の精神を持った生徒を育成する。
		自己向上と他者への思いやりの意識を持たせる。
		希望進路の実現。
生徒会	生徒会活動の充実。	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする。
		日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく。
		東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる。
	文化祭の成功。	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする。
体育祭の成功。	初めて行う行事であるため、計画的に運営し、成功を収められるようにする。	
課外活動の充実。	充実した課外活動になるよう、様々な面における現状にあったサポート体制を構築し、さらに発展させる。	

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)	
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成。	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決。(生活相談と連携) 悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実。(生活相談・特別支援と連携)	
	先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的な生活習慣の定着。	学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導。 教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築。	
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実。	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実。 情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実。	
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応。	学年会との連携による有機的な指導の検討。 懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底。	
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底。	校内での盗難の抑止。 自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ。(交通安全)	
	生活指導方針の周知・徹底。	在校生と保護者への積極的な情報提供。 受験予定者と保護者への積極的な情報提供。	
	進路指導部	生徒が適性や個性を十分発揮できるような進路選択をし、各自の目標を達成できるよう、適切な指導と情報提供に努める。	進路講演等の実施、また進学情報誌、進路情報の案内、通信等配布する。
		生徒の希望進路について把握し、生徒の目標や悩みを把握しつつ、それらの情報を教員間で共有できるよう努める。	進路希望調査・面接等しながら生徒の実情を把握しつつ、科コース、学年、クラス担任との連携に努める。
		希望進路実現のための受験対策と学力向上のための方策を実施する。	ガイダンスや受験対策講座を企画・実施する。

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
教務部	他部署との連携を図る。	文書・選択表等を期日を決め確実に集める。 授業変更・自習監督の円滑化。
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成。	学科コース主任会・教育課程委員会との連携。 各教科との連携。
	学力向上を目指す。	特別授業の充実・新テストへの対応。
	年度変更への対応。	通知表・生徒調べ等所書類の見直し変更。
	成績処理の円滑な運用。	新しい調査書に対応する。
	成年年齢18歳引き下げに伴い主権者としての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な知識・資質を養う。	全校で10月に行われる憲法人権平和教育集会に代わるホームルームでの新型コロナウイルスに関する人権教育を計画実施する。 2学年で行う主権者教育を計画的に行い、選挙権だけではなく、権利と責任について考えさせ理解を深める。 2学年で行う平和教育を計画的に行い、3月の沖縄研修旅行につなげていく。
	行事企画の円滑な運営。	2ヶ月前連絡の徹底。 ミスをなくす。 反省の集積。
	適正な定員確保のための入試。	基準の検討。 入試内容の検討。
	間違いのない教科書選択。	各教科・教科主任との連携 確認の徹底 教科選択の期限厳守。 円滑な教科書販売ができるような支援。
	図書視聴覚部	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。
	図書館利用の活発化。	利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。
	読書活動の推進。	生徒が親しみやすい本の選定。読書週間を設ける。

## 2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
環境衛生部	生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応。	検診で指摘を受けた生徒への年3回の受診勧告と顧問からの勧告を行い、各科目標受診率を達成する。 感染症り患者が出た場合、早期に全職員へ周知徹底し、生活習慣を見直させる指導を促し、感染拡大防止措置をとる。
	健康啓発活動の充実。	セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。
	学習環境の整備。	教師生徒による全校清掃の徹底と、校内巡視による校内美化の注意喚起を行う。 毎日の掃除に窓ふきを追加する。
	資源の再利用。	ごみの減量化のため、裏紙利用の徹底を行う。 ごみの分別の徹底と、資源の有効活用を行う。
	防災意識の定着。	年2回の防災訓練の実施。 入学時作成した、登下校における災害発生時の初期避難対応について確認、修正を促す。 調理室の防災自主点検の実施。
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	学級・学年PTA活動の充実。
		地区PTA活動の充実と参加人数増。
		委員会活動の推進。
	同窓会組織の充実活性化。	PTA研修の充実。 同窓会役員と連携を取りながら更なる組織の充実化、活性化を図る。事務局設置を検討。タイムカプセルの扱い再検討。
中信地区私学助成推進協議会の活動を展開。	事務局として、活動の運営と次年度への引継ぎを円滑に行う。	
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊にし言語文化に対する関心を高める。	漢字検定全校受験によって、漢字や語句の定着や実力アップをはかる。
		小論文模試などを活用し、自己表現力を磨き、入試に必要なスキルを身につける。
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に深く身につける学習を目指す。
		新テストに対応できるように、個々に応じた指導を行う。(SS以外の3年生(希望者)に対して、火・金 古文漢文の8限授業実施)

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
地歴公民科	教科指導の充実。 成年年齢引き下げに伴い、主権者としての知識と自覚の向上を図る。	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく。
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する。 思考力・判断力・表現力を育成するよう、授業やテストを工夫する、ICT教材の活用、一高スタンダードの活用。
数学科	各科・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。一斉テストを行い有効利用することで学力向上を図る。
	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。
理科	全ての科・コースで理科の基礎学力の定着を図り、学力上位クラスを中心に、新テストを見据えた確かな科学的思考力の向上を図る。	全科・コースで、教科書内容を一通りを履修し、高校生として学ぶべき必要最低限の基礎学力を習得する。
		各教科担任で新テストの出題傾向等を研究し、演習問題などを通じて、生徒の新テスト対策を行う。
		2022年度から新学習指導要領を意識した実験や視聴覚教材等を効果的に活用を図り、学習内容を身近な現象と結びつけることで、自然科学に対する理解を深化させる。 学力上位クラスを中心に、問題演習、小テストを行う。知識の定着を図り、知識の活用を練習を通して、科学的思考力の向上を目指す。また、特別授業を有効利用する。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために。	スポーツテスト実施による体力把握。
		バレー・バスケットを中心として球技による集団スポーツでの体力の向上とコミュニケーション能力の育成。 柔道による「心・技・体」の重要性の認識。
	心と身体の育成のために。	「心と身体のバランス」の重要性についての取り組み。
		青春期の「性」に対する考え方の取り組み。 現代の「少子高齢化」「社会保障」等の諸問題の取り組み。
保健授業でのアクティブラーニングの導入。	プロジェクターやPC等を使いグループ学習を取り入れる。	

2020年度学校教育評価表(案)

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
外国語科	基礎学力の充実。	長期臨時休校期間中の学力保障を動画授業などを使いながら補っていく。
		定着させた基礎内容を応用した問題解決能力の育成。
		高等学校基礎学力テストを視野に入れた、教科書を最大限活用する4技能を意識した授業展開。
		長期休暇の各講座に適した課題提示と課題内容理解度の確認。
	進路実現のサポート。	ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強しながら、自ら発信する力の育成。
		共通テスト・二次対策・私大入試に向けた問題演習と個人指導。
		模擬試験の活用。
	教科会として教授法の研究。	英検の受験促進および二次試験面接指導。 大きく変革していく大学入試を見据え、4技能の向上を目指す授業方法の研究と実践例の共有。
芸術科	芸術の幅広い活動を通し豊かな情操を養う。 (望まし人格の完成)	芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
		互いに批評し合う等言語活動の充実を図る。(鑑賞教育内などにおいて)
		感性を高め、幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身につける。
家庭科 (専門教科)	座学と実習を関連づけた学び。	生徒が自ら課題を見つけ、学び、考える力を身につけるため、座学と実習をリンクさせた授業を構築する。
	基礎技術の定着を図る。	実技試験のルーブリック(評価基準)を明確にし、生徒の自主学習を助けて、基礎技術を身につけさせる。
	課題研究の充実。	通常授業や特別授業、また課題図書などを通して、食をめぐる社会状況への興味関心を深め、課題を解決する力の向上を目指す。
家庭科 (一般教科)	自立した生活を送るための知識や技術を身につけさせる。	衣・食・住に関する知識の習得のみでなく、実習の充実を図っていく。 新聞記事やワークブックを活用し、契約社会における消費者としての自覚を持たせる。
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する。	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算)
	コミュニケーションを行う能力を養う。	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す。	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身に付ける。
		想像力・思考力・集中力・持続力・体力の向上を図る。
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身に付ける。
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身に付ける。